

まどい

第193号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

1955（昭和30年）創刊

2009年2月20日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mal: madoi30s@cc.mbn.or.jp

「だるま温泉」で

新年会

湯沢 飯塚和雄

みなさんお元気で新年をお迎えのこと
と思います。

この冬は大寒になってもあまり雪が降
らず、雪かきでは楽をさせてもらって
いると思っておりましたところ、季節のめ
ぐりはさう甘くはなく、この数日はこの
時期らしい降りかたになっています。

が来ると数えではなく真正正銘の70歳と
いう大台に乗るかたが大部分かと思いま
す。年頭に当たり少しは「チェンジ」し
なければと思うこともなくはありません
が、これからはお互い体を大切にす
ることだけは「チェンジ」できない最優先事
項ではないでしょうか。

1月26日、だいぶ時間が経ちましたが
古希を祝う会の反省会を兼ねて新年会を
というところで、湯沢の「だるま温泉」に
集まりました。今回は12名のご参加で、
阿部アイ・岩崎イネ子・小沼ツヨ・柴田
美智・高橋カネ子・高橋直子・巖石セイ・
小沼喜代雄・武田龍太郎・豊島健一・大
友行・飯塚和雄のみなさんです。宗夫
さんにはどうしても都合がつかず、古
希を祝う会で一番ご難儀をおかけした事
務局長をさしおいた形での新年会になっ
てしまい申し訳ございませんでした。

今回も送迎バスの手配をはじめ一切合
財を大友幹事長にお願ひし、おかげさ
まで、歓談・カラオケといつもに劣らぬ盛

昨年、ついに私たちも、県外から6名、県内から16名のご参加で古希を祝う会を開催いたしました。新年になり誕生日

になり、バスの中でまたひととき盛り上がり、思いがけず楽しいひと時となりました。それにしても、湯沢く西内く真坂峠く仙道・田代と進むにつれて積もっている雪の量が別になり、仙道の雪をあらためて実感しました。県外から何年間か冬の仙道に帰省しておられないみなさんだったら、なわのことだろうと思っただけです。

春になったらまた集まるべとの声があるものの、みなさんそれぞれの場でまだまだ活躍中で、次回の予定は立ちませんが、またの機会を楽しみにしたいと思います。(21・1・27)

関東関西は4月に

昨年の「古希祝いの会」には、関東関西の多くのみなさんが参加できました。それが、それ以前から「やるべ」と話が出ていました。

そこで平成18年の「ぐる寝の会」に引き続き関東関西の集まりの企画が進められています。どうぞみなさん楽しみにして下さい。(二面に詳細)



第2回

「ふる夏の会」

昨年行われた「古希祝いの会」にはそれを前後して帰省しているなど事情が重なり参加できなかった関東関西のメンバー。しかしそれ以前から「又みんなで……」との声はあがっていました。

平成十八年に行われた「ごろ寝で語る会」の様に関東以西でやりましよう、今度は本格的に動き出したものです。

何せ自称年寄りで「セヤミコキ」乗り換えなしで駅の傍、ヨコになったりあぐらをかいたり茶碗酒。これこそ今時贅沢かも知れませんが。

今回は熱海を選定しました。

後日出欠の連絡を頂き、人数の確認をさせて頂きたいと思えます。

孝之助・芳雄

熱海で

憩いのひとときを!

泣ける歌

寿司屋で……

高橋
孝之助

夜、床の中で寝付かれないままいつものように枕元の携帯ラジオのイヤホンを耳に入れる。

ウトウトしながら聞くともなく聞いていると、女性歌手の歌が流れてきた。ぼんやり聞いていたがその歌詞を聴いていて思わずイヤホンを押さえた。その歌手の歌のうまさもあるのだが、その詞の内容にどんど

ん目が覚めてしまった。歌の題名は『寿司屋で……』というものだった。

歌手の名も聞いたこともない「あさみ ちゆき」という三十一歳の女性だった。

寿司屋のカウンターに並んで座った父と娘、その日を限りに離婚した父と会えなくなるという話。

父と母との間には何があったのか知らないが、やさしい父のさびしそうな横顔を見て、何故こんな事になったのかと悲しむ娘心。成長し結婚を間近に控えた娘はあ

の日の寿司屋を思い出しながら、胸の中で父への感謝を告げる。

眠気はいつの間にかふっとんで、

ただやたらに涙がこぼれ枕をぬらしてしまった。翌日早速CDを買いにレコード店へ走る。店を出て直ぐに車でCDをセットして聞く。

思い入れもあるのだが、やはりじつくりと聞くと素晴らしくいい。自然とまた涙がこぼれる。スーパリーの駐車場でも何度でも聞く。やがてもを腫らしながら帰路につく。



記

■日程

平成二十一年四月十八・十九日(土日)

■場所

熱海温泉「志ほみや旅館」
(熱海駅徒歩三分)

■会費

二万円(夏雲カトリック会会費)

詳細は後日お知らせします。



あさみ ちゆき 本名山陽子
山口直子

「寿司屋にて」おすすめです。

ストリート歌手で「井の原公園の歌姫」と言われていた。マイク一本とラジオカセット歌っていたのをライブレコードにスカウト。第四十二回日本有線大賞・有線音楽賞を受賞した歌手のひとり。レコードは「海」歌集の収録力マで収録中。

三日前の古新聞

古館牧子の
「気色悪い言葉」よろしかったら
こちらの方も見てください!

地方からの贈り物で楽しみみの一つにそこに入ってくる「地方紙の包み紙」である。きれいにしわを伸ばして隅から隅まで見つめる。

どうやらそんな癖があるのはボクだけではないさそうで、先日高橋孝之助君から、まさに地方紙の切り抜きが送られてきた。それは、昨年十二月七日の「秋田さきがけ新聞」内館牧子氏のコラムエッセイ。

内館氏は「横綱審議委員」としての発言が大分世の反響を呼んだものでした。秋田出身だからか月に二回書いていようである。「内館牧子の明日は花まる!」

今回は『中・高年よまねするな』と

して巷の言葉の乱れに愛している。

「コーヒーショップでは『ご注文はコーヒーのほうだけでよろしかったでしょうか』だど。まったく、気色悪いっただけありゃしない!」それがとある新聞記事が「ほう」を使っていると憂慮し、○○のほう・○○のカタチ・○○的・内館氏は「ほうも含めて「断言を避ける言葉遣い」には身の毛もよだつ」とまで言っている。そして古館氏自身の言葉をこのようにな今風な言葉にあえて直して書き込んでいます。

言葉の乱れ……などと大それた事は言えないがボクや孝之助君に限らず多くの人たちも嫌な気分で見ていることだらう。果たして時代の流れだなどと片づけられていいものか。いまテレビではクイズやお笑い番組が多くそこに出てくる人たちの言葉の悪さがそのまま巷に流れてくる。

NHKでさえわかもののお笑いが出てくるとやはり聞くに堪えない言葉も出てくるが、まだ民放よりはましだといえる。報道の影響が大きいことはその仕事に携わる人たちは重々わかっているはずなのだが、少なくともNHKぐらいの気配りはほしいものだ。

古館氏の切り抜きを送ってきた孝之助君の気持がボクにもよくわかる。

(Y)

編集手帖

百年来の不況だと言われます。しかしこれも有り余るほどの金を持つ人たちのマネーゲームから始まっています。自分は動かず働かずで数億のカネをやりとりするといふ我々には想像もつかない世界です。そのツケが結局われわれ庶民の暮らしに響いてくると言ういつものパターン。お願いだからこの後の人生ゆっくりに安らかに暮らさせてほしいものです。

地元では新年会が行われました。昨年の古希祝いの会では参加が今一だった関東関西、以前から又やりましょうと声が出ていましたがようやく動き出したようです。時には日常から離れて古い仲間とのんびり時間

を過ごすのは健康のためにもいいことです。関東関西と言わず出られる条件が有りましたら参加されることを希望します。

この年齢になると、自分が病んだり連れ合いが病んだり、そんなことも珍しくもないようです。私も今は妻の二十四時間完全介護に当たっています。介護保険につながる地域医療介護などの連携したシステムのなかで、居宅介護を始めて三ヶ月になるうとしています。当人にとっても病院にいるよりは自宅で、しかも医者先生も看護師さんも、ヘルパーさんも来てくれ、入浴まで出来る、恵まれているのかなと感謝している毎日です。

やはり何よりも健康であること、ありがたいさが身にしみまます。

金持ちの感覚

国でお金をくれるんだって。カネは天下の回りものだと言うが一向に回ってこない庶民にこんなカタチで回されても余り嬉しくはないんだな。内需拡大につながるんだって言うけれどこの不景気に仕事も収入もなくなり、借金返済になり電気代や家賃や水道代、子供の給食費や学費などにならざるを得ません。お金を配って経済対策なんてばかげた話は学識経験の豊かな議員先生の頭のどこから出てくるのだろう。そのお金を「総理は買いますか?」こうなったらもう日本人であることが恥ずかしいよ。オマケにそのお金さえ買えない立場にある人も沢山いるのに、如何に生活に困ることのない輩が政治をつかさどっているかがわかるというもんだ。